

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県立男鹿水族館	所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先
指定管理者	株式会社男鹿水族館	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

1 施設の概要														
設置目的	魚や海獣のふれあいを通じ自然保護や地球環境に対する知識と意識を深めるとともに、生涯学習の場を提供し、観光レクリエーション活動の為の利便の増進を図るほか、県内外の交流を促進することで地域の活性化を図る。													
県の施策上の施設の位置付け	人口減少の進行やデジタル技術の進展等のほか、コロナ禍により旅行ニーズの個人化・個性化が一層強まるなど、観光を取り巻く環境が大きく変化している中、自立した稼ぐ観光エリアの形成に向けた地域観光の中核施設													
設置年	2004年	経過年数	22年	目標使用年数	60年	残年数	38年	施設面積	延床面積8,968.75㎡					
施設の設置状況	水族館													
県内類似施設	大森山動物園（秋田市）						東北各県類似施設	浅虫水族館（青森県）、もぐらんぴあ（岩手県）、加茂水族館（山形県）、仙台うみの杜水族館（宮城県）、アクアマリンふくしま（福島県）						
施設の基本的な方針 （個別施設計画）	方向性	方向性に向けた対応												
	存続	施設の機能維持と利用者の安全確保のため、設備機器等の計画的な改修・更新を行い施設を存続させる。												
料金制	利用料金併用制	主な料金設定	別紙による											
指定期間	令和6年4月1日 ～ 令和16年3月31日（10年間）						営業期間・時間	通年（ただしメンテナンス休館あり）3～10月 9:00～17:00、11～2月 9:00～16:00						
指定管理業務の内容	秋田県立男鹿水族館に関する次の業務 ①管理運営業務②施設維持管理業務③企画運営業務④事務処理業務⑤魚、海獣等の飼育に関する業務						自主事業の内容	各種企画展およびイベントの開催						
サウンディング実施対象	○	年間利用者数 （人）	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	年間利用収入 （千円）	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
			143,855	170,360	182,605	176,379	176,417		120,516	144,402	150,184	148,318	150,679	
収支決算 （千円）	項目		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	増減要因の分析						
	収入	利用料収入	120,516	144,402	150,184	148,318	150,679	年間利用者数	年間利用者数については、記録的猛暑や大雨、飛び石連休の影響があったものの、SNS・パブリシティの強化や屋内施設需要の高まり、終盤のホッキョクグマ誕生に関する話題性提供により前年度比100.0%(38名増)となった。					
		指定管理料	88,156	80,223	80,223	88,229	88,229							
		その他収入	137,654	171,211	140,576	153,921	175,930							
		合計	346,326	395,836	370,983	390,468	414,838							
	支出	人件費	103,883	109,028	119,176	121,303	129,375	収支決算	収入についてはクラウドファンディング支援金9,576千円が計上されたほか、有料来館者が1.2%増えた事による利用料収入の増、売店部門のオリジナル商品の販売が好調に推移するなど前年度比6.2%の増となった。 支出については老朽化による緊急修繕の実施、人件費の高騰等により前年度比5.1%の増となった。					
		光熱水費	71,353	95,301	92,349	89,910	88,403							
		修繕費	10,764	12,256	12,091	8,517	13,290							
		委託料	25,160	24,461	21,906	26,894	29,914							
		その他支出	134,767	149,465	133,030	142,730	148,074							
		合計	345,927	390,511	378,552	389,354	409,056							
	収支差		399	5,325	▲ 7,569	1,114	5,782							

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県立男鹿水族館	所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先
指定管理者	株式会社男鹿水族館	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

2 ＜観点Ⅰ＞施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組						
運営方針・ 施設の利用目標	魚、海獣等との触れ合いを通じた学習の機会を提供し、並びに県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図るという施設の設置目的を達成するため、生態の繁殖などに関する科学的知見の横上げを図るとともに、それらについての情報発信の強化や教育利用の安定的な獲得に取り組むほか、各種催事の開催等により施設の利用促進に努め、男鹿地域全体への誘客に寄与する。					
	目標の内容	利用者数 165,000人				
目標・実績	年度	R 5	R 6	R 7	増減要因の分析	
	目標	165,000	165,000	165,000		
	実績	149,020	143,872	145,567	夏期の屋内施設需要、季節に応じた各種イベントの開催・ホッキョクグマ出産関連の話題性等をSNSやパブリシティによる情報発信を強化し集客に努めたが、4月、9月の飛び石連休、1月の大雪による客足の鈍化等により計画には届かなかった。	
	達成率	90.3%	87.2%	88.2%		
	具体的な取組とその効果	当館の特徴を生かし、季節毎にイベントを実施した。秋田冬アソビ割によるアシカ、アザラシの飼育体験プランの販売やホッキョクグマ関連イベントの情報発信に努めた。教育利用は県内の校外学習について規模の大きな学校が方面変更になり減少、前年比73.4%に留まった。今年度新規の取組として「ドリームデイ・アット・ジ・アクアリウム」と題して障害を持つ子供とその家族を無料で招待するイベントを実施し社会貢献に寄与した。				
次年度の目標	目標の内容	有料利用者数150,000人				
	設定の根拠	前年度は145,567名となり目標に対し88.2%に留まったが、イベントの充実、施策のブラッシュアップにより150,000人の目標を新たに設定する。				
＜観点Ⅰ＞ 評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）			
	指定 管理者	B	イベントの充実により情報発信を強化し、県内を中心に多くのメディアに露出する事ができた。効果的な広報活動により取組の周知が図られ前年を上回る利用者数となったが、目標の88.2%に留まったためB評価とする。			
	県 所管課	B	連休の巡り合わせや気象条件により集客が難しい中、様々な取り組みにより目標達成はできなかったが前年比増となったためB評価とする。			
3 ＜観点Ⅱ＞施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組						
利用者満足度 の実績	年度	R 5	R 6	R 7	増減要因の分析	
	実績（％）	90.4	94	94.3	季節毎の各種イベントの開催、接客応対が評価され前年を上回った。	
	具体的な取組とその効果	生き物とのふれあい体験などのイベントの充実、売店でのスタッフ考案オリジナルグッズの販売、レストランでは海洋高校との連携メニューの販売など好評であった。				
＜観点Ⅱ＞ 評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）			
	指定 管理者	A	各部門の施策や接客においてお客さま目線での対応が評価され94.3%と高水準を維持しておりA評価とする。			
	県 所管課	A	様々な取り組みにより満足度80%以上の高水準で評価を得続けているためA評価とする。			

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県立男鹿水族館	所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先
指定管理者	株式会社男鹿水族館	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

4 ＜観点Ⅲ＞県民サービス及び業務効率性の向上と公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組						
モニタリング項目	モニタリング項目			主な視点	指定管理者	県所管課
	管理運営体制	① 職員の配置状況	事業計画書等に照らして適切な職員配置となっているか 等		B	B
		② 職員の勤務実績	事業計画書等に照らして適切な勤務実績となっているか 等		A	A
		③ 職員の処遇等	職員の処遇が労働法規に反していないか 等		A	A
		④ 施設等の適切な管理	事業計画書等に照らして日常的な保守管理や定期点検、清掃、警備、修繕等がなされているか 等		B	B
		⑤ 備品の適切な管理	備品の紛失・損傷はないか 等		A	A
		⑥ 個人情報の保護	個人情報取扱特記事項が遵守されているか 等		A	A
		⑦ 安全・安心の確保	事故防止マニュアルや緊急時連絡体制を整備しているか 等		A	A
		⑧ 経費の低減・収入の増加	経費の低減や収入の増加の取組が進められ、前年度と比較し、施設の収支状況が改善されたか 等		A	A
		⑨ 健全な経営	指定管理者選定時の財務指標と比較し、特段の経営の悪化がみられないか 等		B	B
	サービス向上	① 開館日・開館時間等	事業計画書等に照らして適切な開館状況となっているか 等		A	A
		② 業務の実施	事業計画書等に照らして適切な業務が実施されているか 等		B	B
		③ 施設の使用許可	事業計画書等に照らして適切に使用許可がされているか、優先的又は不利益な取り扱いはないか 等		A	A
		④ 職員の接客	丁寧な対応や挨拶がなされているか、名札着用や適正な服装をしているか 等		A	A
		⑤ 広報・利用情報の発信	ウェブサイトやSNS、パンフレットなど、多様な媒体により積極的な広報を実施しているか 等		A	A
		⑥ 利用者の相談・意見・苦情	ウェブサイトや電話等による相談窓口を整備し、利用者からの相談・意見・苦情への対応策を講じているか 等		A	A
		⑦ 課題への対応	利用状況のほか、満足度調査等から課題を抽出し、対応策を講じているか 等		A	A
＜観点Ⅲ＞評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）			
	指定管理者	A	管理運営体制については安全安心を前提にマニュアルを順守した施設運営を行い大きな事故なく終える事ができた。④、⑤については開館21年が経過し館内全体の老朽化が進んでおり今後通常営業に支障をきたす恐れがあるため計画的な大規模修繕、リニューアルに向けた対策が必要である。また、防災訓練など定期で実施し安全対策全般の強化を図っている。サービス向上についてはマニュアルに基づいて適切に対応している。特に情報提供についてはSNSや報道機関への広報活動を積極的に行い露出の強化を図っている。			
	県所管課	A	月例報告書、随時面談及びニタリングチェック自己点検表の内容を精査したところ、改善点なしあるいは概ね順調（重大な問題点なし）であることを確認したのでA評価とする。			

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県立男鹿水族館	所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先
指定管理者	株式会社男鹿水族館	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

5 県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方		
県の施策の達成状況	男鹿地域の観光拠点の一つとして多くの観光客を集めており、男鹿地域全体への誘客にも寄与しているほか、教育旅行・校外学習等の教育利用も広く受け入れており、水生生物とのふれあいを通じた生涯学習の場を提供している。	
施設運営の課題	施設の経年劣化により、施設運営するために必要な修繕箇所が多発していることから、各種設備等の修繕を計画的に実行していく必要がある。	
今後の方向性	利用者の安全や利便性の向上を図るための施設修繕を計画的に実施し、引き続き、男鹿地域の観光拠点施設として周辺地域への誘客を図る。	
6 外部有識者委員会による評価（提言）		
評価(提言)令和7年度	施設の管理運営状況	○目標とする有料入館者数については、開業20周年を迎えた一方で前年度から減少するなど伸び悩みを見せていることから、ホッキョクグマ以外の新たなコンテンツの造成のほか、各種イベントや中長期的なキャンペーン企画に取り組むとともに、当該取組をSNS等で積極的に発信するなど、集客力の強化に努めてもらいたい。 ○男鹿水族館単独ではなく、なまはげ館や男鹿温泉郷など、男鹿全域での観光ルートとしてPRを推し進めるとともに、地元の観光協会と連携した取組を期待したい。
	県の施策達成に向けた施設運営	○令和7年度に取り組んでいるホッキョクグマの展示場の整備に係るクラウドファンディングが好調であるなど、高いポテンシャルが見込まれる施設であることから、PFI手法による民間資金の活用など、民間活力を活用した魅力向上も検討されたい。
評価(提言)を踏まえた対応方針令和7年度	指定管理者	○企画展や各種イベントの充実を図るとともに、飼育員体験やバックヤード体験といった体験プログラムの実施により、新たなターゲットの取り込みや他施設との差別化を図っていく。 ○現在、県観光連盟や男鹿市DMO等と連携し、教育旅行誘致に係る商談会に参加するなどの誘致活動を行っていることから、この取組を継続するとともに、一層の連携を図ることにより、地域一体となり誘客促進に努めていく。
	県所管課	○有料入館者数の増加に向けて、展示物の充実や水族館ならではのイベントの企画等を促していくことに加え、教育利用の促進を目的に多目的ホールやキッズスペース等を整備していることから、引き続き、法人と連携して利用客の増加や教育旅行等の団体客の獲得に取り組んでいく。 ○男鹿市やDMO、関連企業及び周辺近隣施設等との連携を促し、男鹿半島地域の観光の活性化を図っていく。 ○民間企業の知恵や活力を活用した魅力向上など、現在の運営体制の中でどのような工夫ができるか検討していきたい。
対応方針の進捗状況令和●年度	指定管理者	—
	県所管課	—